

たもんじ交流農園便り

青果リレー特集号

Vol.103

ひと、つながる。墨田区

第10回「すみだ青果リレー2026」4日間開催！



第10回「すみだ青果リレー2026」が、9/26(土)27(日)10/3(土)4(日)の４日間開催されました。青果リレーは、墨田区の伝統野菜「寺島なす」を聖火のトーチに見立て、人から人へ、お店からお店へ、まちからまちへとつないでいくイベントで、2017年、「聖火」を「青果」にしたら面白いのではないか、という、たった一つのダジャレから始まりました。そんな冗談のような企画が、何と今年で第10回を迎えました。今年のスローガンは、「なす、つながる。墨田区」、寺島なすを先端に付けたトーチを掲げて4日間の走行距離は約56キロ、訪問した拠点は約220か所、参加者はおよそ700人。赤ちゃんから100歳を超えるご高齢の方まで、実にさまざまな皆さんに、寺島なすで、つながっていただきました。



103歳のおばあちゃんも



生後8か月の赤ちゃんも

今年は第10回ということもあってか、メディアにも数多く取り上げていただきました。９月にはテレビ東京の「出没！アド街ック天国」で寺島なすと青果リレーをご紹介いただいたのを皮切りに、初日は産経新聞オンライン版、３日目は読売新聞、最終日の様子はすみだ経済新聞。さらに10月13日には、都政新報の「東京情景」という紙面の表紙を青果リレーの写真が飾り、青果リレーの「メディアリレー」となりました。



9/5 出没！アド街ック天国



9/26 産経新聞



10/4 読売新聞



10/4 すみだ経済新聞



10/13 都政新報

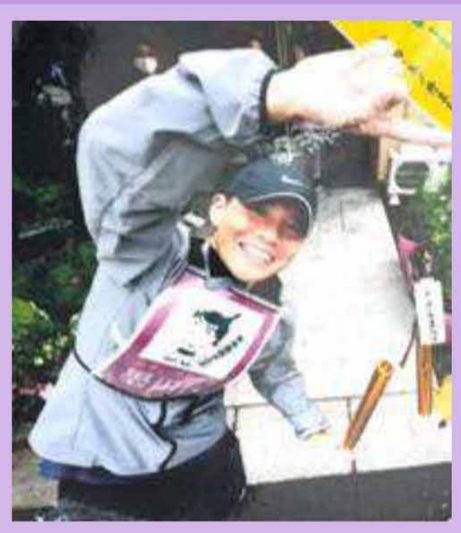
診断士の目で見た青果リレー ～伴走者からの提言～

「すみだ青果リレー2026」にご参加いただいた４人の診断士から、青果リレーの魅力と今後の発展に向けた貴重なご提言をいただきました。地域経済への波及、活動や運営体制の改善、参加者を楽しませる工夫など、診断士ならではの視点をご紹介します。（各原稿は編集部で要約）

「採果式」で、もっと楽しい青果リレーに　中小企業診断士　永澤 敦志



初日の青果リレーにサポート役として参加し、寺島なすを通じて世代や地域を越えた交流が生まれる姿にこのイベントの大きな魅力を感じた。特に高齢者施設での笑顔が印象的だった。今後の発展に向け３点を提案したい。① **運営体制の充実**：準備や当日の業務を整理・分担し、マニュアル化や伴走者の交代制によって、無理なく続けられる体制を整える。② **見せ方の工夫**：トーチのワイヤーの色や、のぼり旗の素材を見直し、写真映えとイベントの統一感を高める。③ **参加体験の充実**：スタート時に寺島なすを収穫する「採果式」を設け、トーチキスのポーズ例や飛び入り参加の機会を用意、青果リレーの魅力を大切にしながら、より多くの人が楽しめる活動へと発展することを期待したい。



10年の「線」を、次の10年の「面」へ　中小企業診断士　日吉 葵

青果リレーに初参加し、子どもから高齢者、企業や商店、地域施設までが自然につながる姿に感銘を受けた。10回の継続で築かれた信頼は、墨田区の貴重な地域資産である。以前、地域活動を「点」から「線」へ、そして「面」へ広げることを提案したが、青果リレーはまさに地域をつなぐ「線」であり、南部への展開は「面」への一歩だと感じた。今後に向けて、次の３点を提案したい。① つながりの見える化：歴代のルートや参加拠点を地図に重ね、10年間の広がりを示す。② 継続できる仕組みづくり：運営ノウハウを記録・継承し、地域の恒例行事として定着させる。③ 成果の記録と共有：参加人数や拠点数に加え、参加者の声も残し、活動の価値を伝える。10年の積み重ねを次の10年へつなぎ、地域の伝統として育てていきたい。

梅若・鳩の街

東向島

周辺コース

10/3(土)

10/3 動画

鐘ヶ淵・玉ノ井

八広

周辺コース

9/26(土)

9/26 動画

初日第一ランナーは岸川副区長！鐘ヶ淵から八広方面へ!!


岸川副区長

初日は、私たちの活動拠点である「たもんじ交流農園」をスタート。第一ランナーは、岸川副区長にお願いしました。ところが、朝からあいにくの雨。鐘ヶ淵、東向島、八広、東墨田方面の児童館、高齢者施設、企業など約 30 か所を巡りました。雨の中、果たしてどれだけの方が参加してくださるのか心配していたのですが、ふたを開けてみると、沿道の応援も含めて 170 人以上が参加してくださいました。まさに、「雨降って、人つながる。墨田区」という一日でした。

この日は、産経新聞の成田カメラマンが同行してくださいました。この方がまた、すごい方でした。巨大な望遠レンズなど、10 キロ以上はありそうな機材を抱えながら、私たちを追いかけるのです。しかも、前から写真を撮るために、私たちを追い越して撮影し、通り過ぎると、また追い越して撮影。これを何度も繰り返す。私たちは寺島なす一本を持って走っているだけなのに、成田さんは重たい機材を抱えて走っている。どちらがリレーのランナーなのか、わかりません!?。


成田カメラマン

三日目は青果リレーの発祥地、梅若、鳩の街、東向島界隈!!


デイサービスちんとんしゃんでは大勢の方にご参加頂きました

この日は、デイサービスや老人ホームなどの高齢者施設、商店、飲食店、児童館、神社、工場、仕立て屋さんなど約 40 か所を巡りました。この日の参加者で特に印象的だったのが、何と 103 歳のおばあちゃんと、生後 8 か月の赤ちゃん(1P ご参照)。年齢差は実に 102 歳以上。寺島なす一本で、幅広い世代がつながりました。

二手に分かれたリレー隊が東京スカイツリーの下で合流！

9/27 動画

錦糸公園をスタート・ゴールとする南部コースは、２日目がリハーサル、４日目はすみだまつり・子どもまつりの本番ですが、今年は、昨年の前半部分の A コースと昨年の逆コースで新開発の B コースの二つに分けました。A コースは押上、文花、キラキラ橘、曳舟方面。B コースは、すみだ北斎美術館、石原、隅田公園方面。二手に分かれたリレー隊が東京スカイツリーの下で合流し、そこから一緒に錦糸公園に戻るというコースです。

10/4 動画

二日目の 9/27 日は約 75 か所を巡りました。児童館、高齢者施設、美術館、公園、カフェ、お菓子屋さん、お寿司屋さん、お花屋さん。普通なら、なかなか一度に訪問できないような場所を、寺島なす一本を口実に次々と訪問する。これが青果リレーの醍醐味です!!



10/4(日)最終日は、錦糸公園でのこどもパレード、カエルも参加した「すみだ花体操」に続き、森山観光局長を第一ランナーに迎えて出発。二手に分かれたリレー隊は、墨田区南部の約 70 か所を巡り、スカイツリーの下で合流。午後２時半頃、錦糸公園に帰着しました。

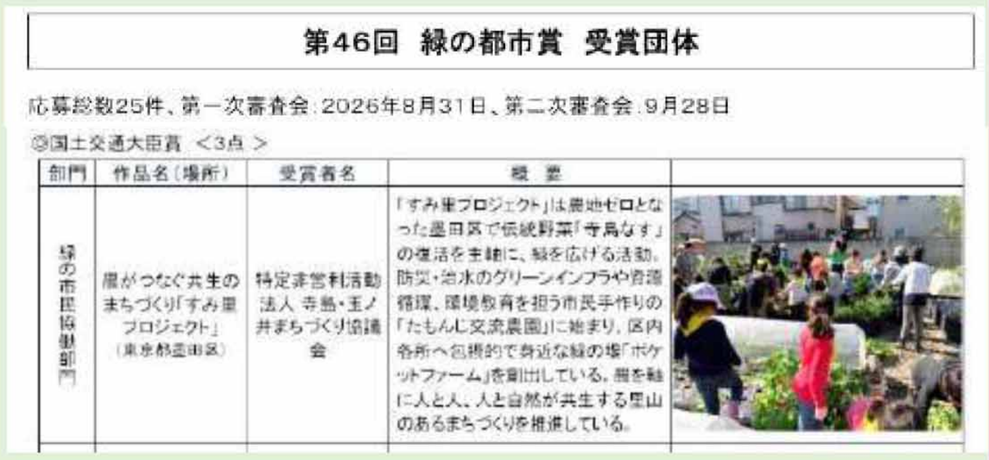

森山観光局長







「緑の都市賞」国土交通大臣賞を受賞！



第46回　緑の都市賞　受賞団体

応募総数25件、第一次審査会：2026年8月31日、第二次審査会：9月28日

◎国土交通大臣賞　<3点>

部門	作品名（場所）	受賞者名	概　要	
緑の市民協働部門	農がつなぐ共生のまちづくり「すみ里プロジェクト」（東京都墨田区）	特定非営利活動法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会	「すみ里プロジェクト」は農地ゼロとなった墨田区で伝統野菜「寺島なす」の復活を主軸に、緑を広げる活動。防災・治水のグリーンインフラや資源循環、環境教育を担う市民手作りの「たもんじ交流農園」に始まり、区内各所へ包括的で身近な緑の場「ポケットファーム」を創出している。農を軸に人と人、人と自然が共生する里山のあるまちづくりを推進している。	

　このたび、てらたま協議会は、第46回「緑の都市賞」の緑の市民協働部門において、「農がつなぐ共生のまちづくり『すみ里プロジェクト』」（東京都墨田区）が、国土交通大臣賞を受賞することとなりました。

　「緑の都市賞」は、緑豊かな都市づくり・まちづくりを目指し、緑の保全・創出活動に優れた成果を上げている市民活動団体や企業、公共団体などを表彰する制度で、1981年に創設されました。毎年、内閣総理大臣賞（1点）、国土交通大臣賞（3点以内）などが選ばれる、歴史と権威ある賞です。12月には明治記念館で表彰式が開催される予定です。これまで活動を支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。たもんじ交流農園に関わる皆様、いつも温かいサポートをいただき、誠にありがとうございます。

受賞の知らせをいただいて　てらたま協議会理事長　牛久光次



寺島なすの復活を軸に、農地ゼロの墨田区で「たもんじ交流農園」を創出し、自然循環や環境保全への取り組み、さらには緑や農的空間（ポケットファーム）の拡大など、人と自然が共生する「里山のあるまちづくり」を進めてきました。今回、こうした活動をご評価いただいたことは、まさに私たちの想いが認められたことであり、大変嬉しく思っております。

　「たもんじ交流農園」で実感した農のある暮らしの魅力を、墨田区全域に広げていきたい。そんな想いから始まったのが「すみ里プロジェクト」です。都市の中に「農」や「自然」の要素を取り入れ、人と人、人と自然がゆるやかにつながるまちづくりを目指しています。特別な場所ではなく、日常の中に。緑地も少なく平坦なすみだに,里山のように、まちのあちこちに、小さな“農”のある風景を生み出し、子どもから大人まで、自然に関われる日常を、人と人のつながりがゆるやかに広がるコミュニティ“都市型の里山”を、誰もが関われるかたちで、未来の「すみだ」を、みんなで育てていきたいと想っています。

　今回の受賞を励みに、未来の「すみだ」を育てる活動をさらに進めてまいります。引き続き、皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

より多くの人が参加できる青果リレーへ　中小企業診断士　黒田 育実



南部コースのリハーサルに参加し、青果リレーの楽しさと地域の温かさを実感した。緻密に組まれたコースやタイムスケジュールには感心した一方、今後の運営に向けて3点を提案したい。① 時間に余裕を持たせる：本番ではトーチキスの参加者が増えることも想定し、各拠点での交流時間を十分に確保する。② 伴走者の負担を軽減する：A・B両コースの伴走者をさらに分班するなど、無理なく参加できる運営体制を工夫する。③ 沿道への広報を充実させる：興味を示しながらも近づきにくそうな方が見受けられた。寺島なすや青果リレーを紹介するチラシを配布し、気軽に参加できるきっかけをつくる。地域の方々との交流をさらに広げ、誰もが楽しめる青果リレーへと発展することを期待したい。



青果リレーを地域活性化の仕組みに　中小企業診断士　新井 健太郎

四日目錦糸公園スタートの青果リレーに全行程伴走し、業種や世代を越えて自然に交流が生まれる、このイベントならではの仕組みの素晴らしさを実感した。特に、車いすやベビーカーでも参加でき、外出が難しい高齢者のもとへリレーが訪れるなど、誰もが参加できる仕組みが素晴らしい。今後の発展に向け、次の3点を提案したい。① 参加事業者のPR強化：各拠点でのトーチキスを店名や写真とともにSNSでリアルタイム発信し、認知度向上につなげる。② 地域回遊の促進：参加拠点を地図化し、スタンプラリーや参加店特典など、イベント後も訪れたくなる仕掛けをつくる。③ 成果の見える化：参加事業者へのアンケートで来店や問合せの変化を把握し、成果を共有する。10年間で培われた地域の信頼関係を、事業者支援と地域活性化につなげていきたい。



青果リレーを10年間続けてきて、私たちは寺島なすをつないできたつもりでした。でも、本当につないできたのは、人と人、まちとまちだったのかもしれません。「なす、つながる。墨田区」。これからも、寺島なすを通じて、墨田のまちに新しいつながりをつくっていきたいと思います。トーチキスにお付き合い頂いた皆さま、沿道から声をかけ、応援してくださった皆さま。本当にありがとうございました！(末林記)

たもんじ交流農園便り
№103 般 2026.11.18
発行　題字　田村風來門
編集　末 林 和 之

HomePage　FaceBook

てらたま協議会(NPO法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)
問い合わせ先　小川 剛
(080-3421-3115)

すみアプ/すみ里PJ